

観光客が迷わないよう看板設置

御坊まちづくり委が東町入り口に

寺内町観光

御坊市の古い町並み保存に取り組んでいる御坊まちづくり委員会(野村義夫会長)が23日、日高別院や東町を訪れる寺内町観光客が道に迷わないように東町の入り口2カ所に案内板を設置した。

小竹八幡神社前に観光ト

イレが設置され、県道が拡幅されたことで寺内町を訪れる団体客が増加。それにあわせて個人やグループ客も増えているが、18号道路から大浜通り、市役所方面に向かう途中の玉置石材店前の大黒橋(市道)周辺で道に迷った観光客から「日高別院はどのようにしていくのか」と、よく聞かれるとの話を聞き、市道から東町への入り口2カ所に案内板を設置した。

案内板は寺内町の景観にあわせ、(株)宮路製材所から寄付を受けた紀州材(ヒノキ)を活用。縦83センチ・横60センチ、縦36センチ・横120センチの2種類あり、それぞれ「御坊寺内町」「日高別院と東町の街並み」と書き込み、矢印で道案内。

野村会長、委員会発起人の中村裕一県議は「寺内町を訪れていただいた人たちが道に迷わないよう、おもてなしの意味を込めて設置させてもらいました。多くの人に来ていただきたい。これからも寺内町の古い街並み保存に協力していきたい」と話した。

近年、空き家の取り壊しが進み、古い町並みが姿を消していることに危機感を持った中村県議の呼びかけ

で有志が集まり、委員会を結成。取り壊しの危機にあった横町の中川邸保存に取り組み、県福祉事業団が土地と建物を買取り、障害児者の芸術作品発表や販売を目的とした「ぎやろー」などがわ、手打ちそばなどが楽しめる食事処「なかがわ」として寺内町観光の人気スポットに生まれ変わっている。



紀州材を活用した案内板を設置